

令和6（2024）年度

地域学校協働活動推進員養成研修⑤ 実施報告

実施日：令和6（2024）年 10 月 22 日（火）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施しました。

最終回となった第5回は、第1回～第4回で学んだことについて確認するとともに、受講者自身も主体となって事業を計画・立案し活動を進めていけるようにすること、また、研修全体を振り返り、自身の活動の次の一歩をどう踏み出すか考えることをねらいとして研修を行いました。

演習「地域学校協働活動の企画・立案」

総合教育センター職員



次に、グループ毎に「子どもたちに身に付けさせたい力」を考えた上で、熟議の手法を用いて、「自校の子どもたちに最も身に付けたさせたい力」についても意見を出し合いながら集約していきました。そして、その力を身に付けさせるために、地域・学校・家庭それぞれでできることについて考えました。

最初に、第4回で学んだことを復習し、どのような視点で地域学校協働活動を計画すべきかを振り返りました。地域・学校・子どもを取り巻く多様な主体の存在があり、それらが共通の目的・目標の下で「つながる」ことが重要であること、「つなぐ」ためには日々の対話の積み重ねが必要であることを確認しました。



各受講者とも様々なアイデアを出しながら取り組んでいました。その様子からは、自分たちの地域をよりよくしたい、地域コーディネーターとしての役目をしっかり果たしたい、という受講者の熱い思いが伝わってきました。熟議の経験も積みながら、「子どもたち」や「地域」の現状から、子どもたちに身に付けさせたい力を考えるとともに、自分たちができること、実施できそうな地域学校協働活動を具体的に考える経験を通して、自身の活動の場で活用できるプロセスを習得できていたようでした。

後半は、前半の演習でそれぞれが考えた自分たちができそうな活動の一つ抽出し、実際に事業を計画するワークショップを行いました。事業を計画するポイントを示した9マスのワークシートを活用し、事業立案を進めました。その後、グループ毎の計画を共有し、それぞれの計画についてアドバイスをし合い、計画をブラッシュアップしていきました。受講者は、計画する際のポイントを理解するとともに、多様な人々との関わりながら企画・立案することで計画が充実していくと感じ取ったようでした。



最後に、「コーディネーターの皆さんに期待されること」として、「地域づくりを進める肝は『人のつながりづくり』であること」「話し合ったことを形にしていくこと」「関わる人たちをワンチームに（目的に向けて行動できる集団に）していくこと」の3点について、研修のまとめとして研修担当者から受講者に向けて伝えられました。本研修での学びにより、受講者それぞれのコーディネートが充実することを期待しています！



研修の全日程が終了後、閉講式および修了証授与式を行いました。「学校を核とした地域づくり」を進めていくために必要不可欠なのが「地域学校協働活動推進員」です。「地域とともにある学校づくり」と一体的に推進し、受講者の皆様に活躍いただくことで、地域づくり、学校づくりが充実していきます。

受講者の皆様の益々の御活躍をお祈りしています！
全5回の研修、大変お疲れ様でした。

【受講者の感想から】

- 同じテーマでも、コーディネーターにより考え方に違いがあることに気がついた。
- 演習に取り組むことで、活動自体の具体について改めて考える機会となった。
- 計画を組み立てていくことの難しさを感じた。
- コーディネートをマネジメントする流れについて、とても勉強になった。
- 研修で取り組んだ内容を仲間と共有して、自分たちのコーディネートをブラッシュアップしていきたい。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp